



異国の人々と 10 日間の交流

私は、8/1 から 10 日間韓国で行われた「AsianDesignWorkshop」に参加しました。参加した学生は、韓国・日本・中国・シンガポールの四カ国の大学の学生で、日本からは我が校の他に芝浦工業大学が参加しました。東京の他大学との交流と、一気に三カ国の異国の学生と交流することができ貴重な体験となりました。さらに、皆専門としている分野が違い良い刺激にもなりました。

- | | |
|-----------|---------------------|
| ■ コンセプト | 異文化の人たちとのコミュニケーション |
| ■ 使用したスキル | illustrator |
| ■ 期間 | 10 日 |
| ■ イベント名 | AsianDesignWorkshop |

- プロセス -

共に行動することで次第にわかりあっていく

DesignWorkshop ではまずいくつかのグループに分かれて最後の発表まで一緒に行動するというものでした。韓国の街中を FW してコミュニケーションをとっていくことで、次第に仲が深まり、言葉は違えど親しい友人になることができました。



① アイスブレイク

参加大学である 5 つの大学の学生と教授が集まりテーマの発表とグループの配属をした。その後焼肉を一緒に食べてアイスブレイクを行った。



② フィールドワーク

韓国の街中で買い物や食事をし、アイデアの種となるようなものを指定のスマホアプリで撮影・保存して共有した。



③ ブレインストーミング

各自、自分の国のことや FW で撮った写真から思った事や考えた事をポストイットに書いて貼り付けてまとめた。



④ テーマ決め

最終成果物をどんなテーマに沿って作るのかを決めた。全体的なテーマが「何かと何かを掛け合わせる」という物だったので私たちは、「communication × travel」に決定した。



⑤ アイディア決め

決めたテーマに沿って、1人1案以上アイデアを考え、全員に共有した。その中から1つに絞った。



⑥ 制作

各自役割を与えられて制作に取り組んだ。私はアプリケーションの UI デザインを担当した。



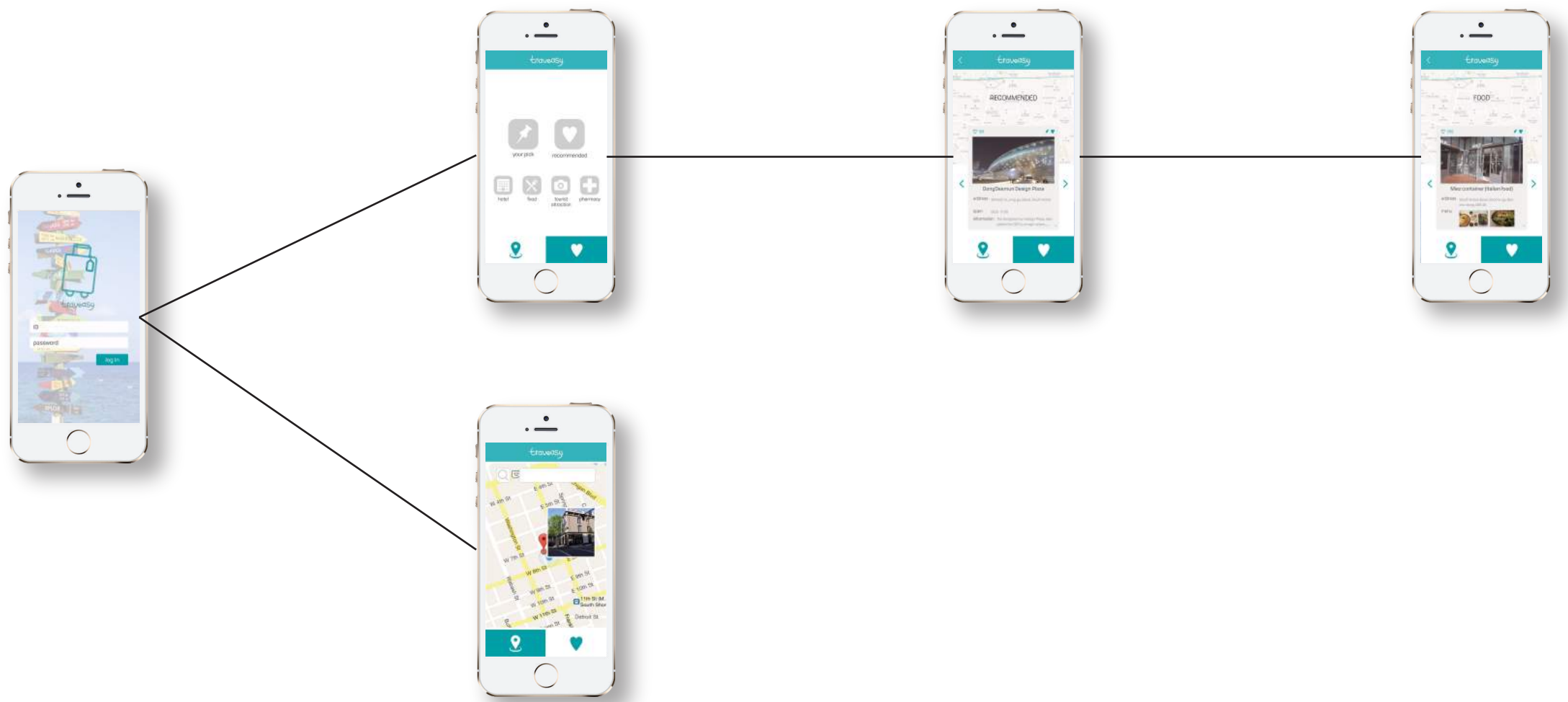
⑦ 発表

最終成果物を他のグループと教授の方々に、プレゼンテーションして、フィードバックをもらった。

- 役割 -

アプリの UI デザイン

私たちのグループが考えたのは、旅行するにあたって良いと思った場所をオススメし合うアプリケーションだ。旅行も楽しくなり、他のユーザーとのコミュニケーションが出来る。



- 学んだ事 -

外国に滞在して初めて気づかされた事

言語の違いによるコミュニケーションのすれ違い

議論中に意見のすれ違いがあり、それが最後の方で発覚してグループ内で一度口論になってしまった。共通理解の重要性を感じた。英語を母国語としているシンガポール人や流暢に話せる韓国人が有意に議論を進めていて、自分たちの意見や主張は通りずらく、悔しい思いをした。

文化の違い

他の国では食事の挨拶がなかったりなど、カルチャーショックを受ける事が多々あった。特に韓国の徴兵制度。徴兵制度の存在は知っていたが自分たちと同じくらいの歳の学生が実際に軍隊として鍛えられていた話を聞いて、文化の違いを強く感じた。さらに韓国では戦争などの影響でマップが使えない。こんなに近くにある国なのに全然日本と違って世界には知らない事がたくさんあるのだと改めて思い知らされた。同時に、もっとたくさんの事を知りたいと思った。

日本人の特徴を知った

外国に行く事で、逆に日本人の特徴を知る事ができた。例えば、日本人が極端に時間にうるさい事だ。

外国人の友達ができ

一度に3カ国の違う国の学生と友達になれた。日をまたぐ毎に相手の事をわかり始め、最後にははじめより相手の言っている事が伝わるようになった。しかし、自分の思っている事を上手く伝えられない事が多くとても悔しく思ったので英語を話せるようになりたいと思いました。

